

国立宮古海上技術短期大学校 学生・教員を対象とした勉強会を開催

日本船主協会では、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人海技者確保のための広報活動を展開しております。

2019年9月10日(火)に、同タスクフォース内の「内航ワーキンググループ(WG)」のメンバーが中心となり、国立宮古海上技術短期大学校(岩手県)において、内航海運に関する勉強会を開催いたしました。

当勉強会は、海技教育機構の学校の学生や教員を対象に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等について講演を行い、生徒指導や学習に資することを主な目的としています。

9回目(生徒対象の勉強会としては5回目)の開催となった今回は、内航WGメンバー会社より山岸氏(鶴見サンマリン)のほか、及川氏(上野トランステック)、尾形氏、石田氏(NSユナイテッド内航海運)、真治氏(栗林商船)、吉田氏、通山氏(三洋海運)、西川氏、黒住氏、(日本マリン)が国立宮古海上技術短期大学校を訪問しました。

学生対象の勉強会では、山岸氏が内航海運の現状を紹介した後、及川氏、尾形氏が、貨物船・タンカーなどの各社運航船やその荷役について、実体験を交えながら講演を行いました。講演後、学生からは「より良い働く環境づくりのための取り組み内容」や「女性の採用について」といった質問が挙がり、講師がそれに対応しました。

教員対象の勉強会では、宮古校の入試状況や進路状況について情報を共有した後、在学生の様子や海事広報の方法について、意見交換を行いました。

当勉強会は、学校や学生の様子を直接見る貴重な機会となりました。人材確保タスクフォースでは、今後も関係機関と協力し、幅広い活動を継続していくこととしています。



内航海運業界の全体説明をする山岸氏



講演をする尾形氏



講演をする及川氏



勉強会の様子